生活保護法改悪案の廃案

国会会期末ぎりぎりでの採決が狙われていた生活保護法改悪案ですが、首相問責決議案の可決で廃案となりました。生存権保障という国の責務を投げ捨てる暴走に突き進んだ自公、これを後押しした民主、維新、みんな、生活の各党の改悪勢力を国民的な批判で包囲し、廃案に追い込んだ成果です。

申請はねつけの〝水際作戦〟を合法化する同法案は、生活保護基準の引き下げ（8月から）に続く生活保護への攻撃でした。会期途中で提出された同法案に対しては、審議入りする前から「憲法25条を空文化するものだ」（日弁連）などの批判が上がっていました。

衆院ではたった2日間しか審議せず、自公、民主、維新、みんな、生活の各党が翼賛体制で採決を強行し、批判が高まりました。

国民の批判が包囲／参院選の勝利で再提出とめよう

国民の運動で廃案に追い込んだことを確信にして、参院選後に再び生活保護法改悪案を提出させない国民的たたかいを広げることが求められます。

安倍政権のたくらみはついえたわけではありません。14日に閣議決定された「骨太方針」は、生活保護のさらなる給付引き下げを打ち出しただけでなく、社会保障全体を「聖域にしない」として削減の方向を明確にしています。参院選挙後に、医療、年金、介護などの改悪案を一気に具体化する構えは崩していません。

社会保障連続改悪の突破口として生活保護法の歴史的大改悪を狙う安倍・自公政権の暴走に対し、民主、維新、みんな、生活の各党は加担するだけの姿をさらけ出しました。参院選挙は厳しい審判を下す絶好の機会です。

（鎌塚由美）